

「北海道万協会」が発足

全国初 流通・販売・施工が連携

万協フロアの販路拡大狙い

設計事務所を中心に仕様提案

乾式遮音二重床で業界No.1のシェアを持つ「万協フロア」を道内の建築市場に普及させることを目的に、「北海道万協会」が発足した。同製品の流通・販売・施工に携わる商社、販売店、工事店が一堂に会する万協会の発足は全国初。来道した発売元・万協(本社・東京都)の清水雅弘社長は「当社の知名度は道内ではまだ低い、優れた床剛性や遮音性を前面に打ち出し、集合住宅や非住宅向けに販路を広げたい」と挨拶。今夏から営業担当者向けの「施工管理者研修」を実施する考えを明らかにした。

会長に伊藤組木材の大槻氏

万協フロアは、泰成電機工業(本社・長野県駒ヶ根市)が製造、子会社の万協(本社・東京都)が販売する乾式多目的二重床。高規格、パーティクルボード、システムネダ、支持脚、木質系制震材を一体化した製品。パーティクルボードの床パネル破壊強度は、通常のJIS規格に比べ30%アップした高規格品。その耐久性は成人男性が約27年間歩行するのに匹敵する200万回の踏み込み試験をクリアしている。制震材を敷き込むことで遮音等級L1-45に相当する床衝撃音の低減効果を発揮し、地震時の家具の揺れや歩行振動の伝播を大幅に軽減する。床先行工法を採用することで、工数削減による施工の合理化や内装工事の省力化が可能。内装仕上げ精度の標準化や



システマ化にもつながる。将来の間仕切り変更に備え後付け用の補強支持脚も販売している。戸建住宅向けのシステムも販売中。床鳴りや床沈みなどのクレーム防止や工数の削減、工期の短縮に効果を発揮する。日本乾式遮音二重床工業会のまとめによると、乾式二重床の05年度出荷実績(全国)は約1万5600㎡。支持脚から換算した万協フロアの出荷実績は8000㎡弱。約50%のシェアを持つ。道内の建築市場は、分譲マンションの8割が直貼りフロアを採用するなど、乾式二重床の普及は遅れている。万協フロアは他メーカーに比べ道内市場への進出は後発。同社が道内に営業所を置いていないこともあって未知名度が低い。

5月11日に発足した北海道万協会は、札幌圏を中心とした道内の建築市場に販路を広げるのが狙い。参加会員は、取扱商社のサン建材、丸紅建材、野原産業、大興物産、販売窓口の伊藤組木材、王子木材緑化、カナモト、工事店のケーワンシステム。会長には伊藤組木材ウッドエンジニアリング事業部の大槻信弘本部長が就いた。

発足式には泰成電機工業の片桐祐介常務・営業本部長が出席。今後、会

員各社の意見や要望を道内市場の販売戦略に役立てていく考えを示した。道内の建築市場では他メーカーが公営住宅や非住宅の分野で先行して営業を展開。万協はコストや配送、見積り対応の面で遅れを取っているのが現状。会員社からも知名度アップの戦略や見積り対応の支援を要望する意見が出された。

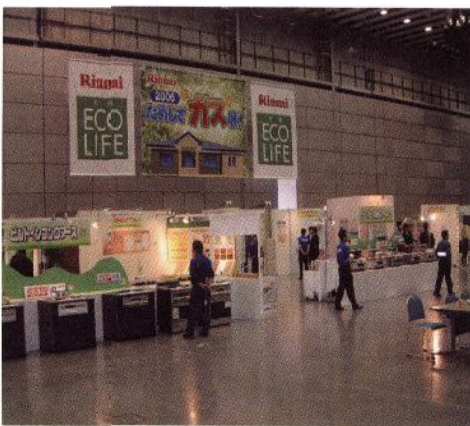
札幌と旭川で新製品展示会

トソー

トソー(本社・東京都)は、6月13日の札幌会場を皮切りに全国28会場で「ウインドウファッションフェア2006」と題した新製品展示会を開催する。

生活者のライフスタイルやインテリアの嗜好が多様化するなかで、窓廻り製品もファッション性が高まっており、幅広いスタイルを演出できる提案力が求められている。同展示会では、世界のトレンドを取り入れたウイ

最新のエコ機器を展示 リンナイが「ためしてガス展」



全道7会場で開催する「ガス展」

リンナイ(本社・愛知県名古屋)は5月19・20日の両日、札幌コンベンションセンターで「た

ンドウスタイルリンクの新事例などを紹介する。主な展示品は6月に発売するカーテンレールシステムや木製ブラインド「ベネウッド」、中高級リーズ「グランエ」など。道内は6月13日の札幌会場(札幌コンベンションセンター204号)と6月20日の旭川会場(旭川地産産業振興センター大展示場の2会場)いずれも「ウインドウファッショネット」をテーマにした講演会も開催する。問い合わせ先は札幌支店。電話011(841)3731。

ーに対抗すべく、各メーカーが新製品を続々と売している。同社製品は、竜巻状の炎を発生させることで燃焼の効率化を促す「トルネード内炎」機能を搭載しているのが特徴。また、低温で身体への負担が少なく、高い汗作用を得られる「家用ミストサウナシステム」